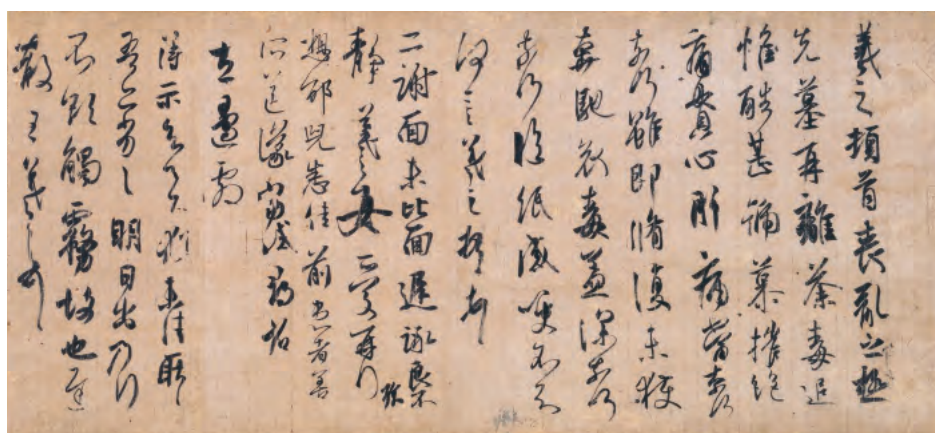


皇居三の丸尚蔵館収蔵品展

皇室と石川 ―麗しき美の煌めき―



国宝《表乱帖》(原跡)王羲之 皇居三の丸尚蔵館収蔵

11月7日より展示

―「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川 ―麗しき美の煌めき―」より―

第70回 日本伝統工芸展 金沢展

特別陳列 前田家の至宝Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

茶道美術名品展Ⅱ【古美術】

特別陳列 生誕150年 初代徳田八十吉とその時代Ⅰ【近現代工芸】

モダン 近代逍遙【近現代絵画・彫刻】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- VRシアターに新作が追加！
- 学芸室の人々
- 11月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7・8・9展示室)

皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川 ―麗しき美の煌めき―

主催 石川県立美術館、国立工芸館、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、宮内庁、文化庁、独立行政法人国立文化財機構

共催 北國新聞社 特別協力 紡ぐプロジェクト、読売新聞社、公益財団法人前田育徳会

後援 石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

10月14日(土)～11月26日(日) 休館日:11月6日(月)

「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川―麗しき美の煌めき―」は、11月7日(火)から後期展示となります。第1会場の石川県立美術館においては、前期展示とは作品も大きく入れ替わり、特に三の丸尚蔵館収蔵の国宝はすべて展示替え、場面替え、となりますので、紙幅を借りてご紹介します。

伊藤若冲《動植綵絵》は、「群鶏図」「薔薇小禽図」から「大鶏雌雄図」「牡丹小禽図」に展示替えとなり、新たな展示も見応え十分です。また《金沢本万葉集》は、三の丸尚蔵館と、前田育徳会のもので並び、話題となりましたが、いずれも三の丸尚蔵館と前田育徳会が収蔵、所蔵する王羲之の榻摸(とうも)に替わります。王羲之は4世紀東晋時代の官僚で「書聖」と仰がれる存在ですが、真蹟はすべて散逸し、その書法を伝えるのは模本と拓本です。模本には主に、真蹟を傍らに置き書写する臨書(りんしよ)や、原本の上に紙を乗せて写し取る榻摸(とうも)があります。後期に展示する三の丸尚蔵館収蔵の国宝《喪乱帖》と前田育徳会所蔵の国宝《孔侍中帖》はいずれも榻摸で、文字の輪郭を写し取り、その中を墨で埋めていく双鉤填墨(そうこうてんぼく)という技法を用いています。墨のかすれなど精巧で、極めて優れた模本として知られています。

国宝以外でも、刀剣ファンを大いに湧かせた《短刀(銘 正宗 京極正宗)》も、《刀(無銘 名物 若狭正宗)》に替わります。こちらは『享保名物帳』に載る名刀です。また、第2章に登場する近代絵画の名品の多くも展示替えになりますのでご期待ください。

■関連イベント

◇特別講演会

第2回「三の丸尚蔵館の

過去・現在・未来」(仮)

11月23日(木・祝) 13時30分～15時

講師…朝賀浩氏(皇居三の丸尚蔵館副館長)

会場…美術館ホール

◇ワークショップ「みんなでつくろう! 扇面散屏風」

11月18日(土) 14時～15時30分

11月19日(日) 10時30分～12時

石川県立美術館で通期展示される《扇面散屏風》

(俵屋宗達筆)を参考に、扇形の画用紙に絵を描いて、参加者全員でひとつの扇面散屏風を作ります。

定員…10組程度(要事前申込・先着順)

会場…美術館講義室

申込方法…兼六園周辺文化の森公式ウェブサイト

から

観覧料…一般1,500円(1,200円)、

大学生1,000円(800円)

*2館共通券 * (内は20名以上の団体料金・割引料金

*いずれも消費税込

*無料対象…高校生以下、18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者

(1名)

*65歳以上の方は団体料金・割引料金

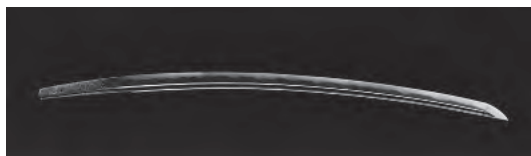
*いしかわ文化の日10/15、文化の日11/3は団体料金 割引料金

*オンラインによる事前販売もあり

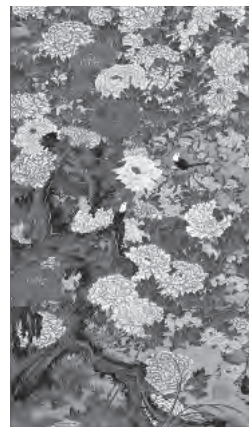
*友の会の方で「石川県立美術館主催企画展入場券」をご利用の方は最初



《松鯉図》川端龍子 皇居三の丸尚蔵館収蔵
11月7日から展示



《刀(無銘 名物 若狭正宗)》正宗 皇居三の丸尚蔵館収蔵
11月7日から展示



国宝《動植綵絵 牡丹小禽図》
伊藤若冲 皇居三の丸尚蔵館収蔵
11月7日から展示

各種団体展(第4・5・6展示室)

第70回 日本伝統工芸展 金沢展

主催 石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、公益社団法人 日本工芸会

後援 富山県教育委員会、福井県教育委員会

10月27日(金)～11月5日(日) 会期中無休(最終日は17時まで)

我が国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。

伝統は、生きて流れているもので、永遠に変わらない本質をもちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。

伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受けついで優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。

昭和25年、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。私どもは、その趣旨にそって、昭和29年以来、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門にわたり、各作家の作品を厳正鑑査し、入選作品によって日本伝統工芸展を開催してきました。

金沢への巡回展は昭和38年の第10回展から始まり、以降は毎年開催されています。今回は全入選作品552点の内から、重要無形文化財保持者(人間国宝)や受賞者の秀作に加え、地元北陸の作家を中心とした入選作品311点を展示します。本年は2階の第4・5・6展示室での開催となります。企画展もあわせて名工のわざをご堪能ください。

◆展示作品解説

日時	11:00	13:30
10月28日(土)	(染 織)毎田 健治	(漆 芸)山岸 一男
10月29日(日)	(金 工)般若 保	第70回展記念講演会
10月30日(月)	(人 形)高田 和司	(陶 芸)中田 一於
10月31日(火)	(木竹工)福嶋 則夫	(染 織)山下 郁子
11月1日(水)	(陶 芸)田島 正仁	(漆 芸)田中 義光
11月2日(木)	(染 織)二塚 長生	(陶 芸)吉田 幸央
11月3日(金・祝)	(金 工)宮藺 士朗	(木竹工)川北 浩彦
11月4日(土)	(金 工)中川 衛	(漆 芸)小森 邦衛
11月5日(日)	(木竹工)中嶋 武仁	金沢美術工芸大学 学長 山崎 剛

■記念講演会

日時…10月29日(日)13時30分～15時

演題…「用の美、美の用(仮)」

講師…青柳正規(石川県立美術館長)

会場…美術館ホール(聴講無料・申込不要)

■観覧料

一般900円(800円)

大学生600円(500円)

65才以上800円 高校生以下無料



第70回記念賞《蒔絵箱「木洩日の熊谷草」》
鬼平慶司(石川)



高松宮記念賞《神代杉証目造板目象嵌二段卓》
福嶋則夫(石川)

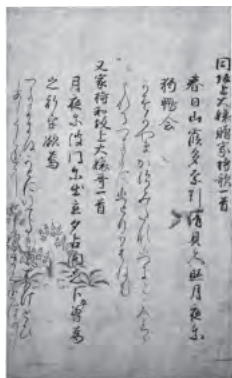
特別陳列 前田家の至宝Ⅱ

10月27日(金)～11月26日(日) 会期中無休

学芸員の眼

「野辺のみどり」には、「梅尾切」と「金沢万葉切」が収録されています。「梅尾切」は、『万葉集』伝本の最古写本《桂本万葉集》巻四(皇居三の丸尚蔵館収蔵)の断簡で、筆者は源順(911～983)とされています。《桂本万葉集》は、前田利家の正室まつ(芳春院)が旧蔵したものを、利常が四女富姫の輿入れにあたり八条宮家に献上しました。

「金沢万葉切」は、利常が収集した源俊頼筆とされた『万葉集』写本86紙のうち、利為により明治天皇に献上された78紙(国宝《万葉集》巻第二・第四残卷(金沢本万葉集))・今回の「皇室と石川」展で11月5日まで展示)の残り8紙のうち、国宝《万葉集》巻第三・卷六残卷(金沢本万葉集)(前田育徳会蔵・同じく11月5日まで展示)に仕立てた7紙の残り1紙です。展示箇所は限定されますが、2015年以来再び全86紙が当館で同時に公開されます。



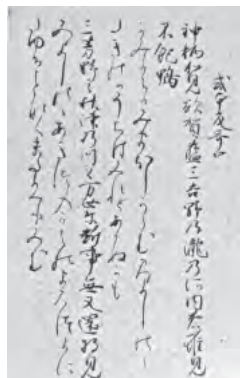
重要文化財《手鑑 野辺のみどり》「梅尾切」

本展のⅡ期では、重要文化財《武家手鑑》にかわり、重要文化財《手鑑 野辺のみどり》を展示します。本作は、前田家に伝来した古筆切のうちの優品28枚を選んで、前田家16代・前田利為が1937年に作らせたものです。作製の監修は、当時の古筆の第一人者で、『源氏物語絵巻』、『平家納経』などの文化財複製を手がけた田中親美に委嘱しました。「野辺のみどり」の名称は、最初に収録した伝紀貫之筆「寸松庵色紙」の「わかせこか ころもはるさめ ふることに のへのみとりそ いろまさりける」に由来します。

表紙と裏表紙には、名物裂の一つで千利休の弟子、里村紹把が所持していたところから命名されたといわれる「紹巴裂」が用いられており、前田家伝来の名物裂の中から選ばれています。四方の角には、裂を傷つけない配慮から、菊をあしらった七宝金具が付け

られています。古筆切は1面に1枚ずつ、紙面が傷まないようその大きさに合わせて、枠押しして凹面を作ってはめ込むように押されており、極札や貼紙は付けられていない点が特徴です。また古筆切収録の順番も、重要文化財《武家手鑑》と同じように一般的な身分によるものではなく、筆者の年代順となっています。

本作に収録された古筆切の多くは、加賀藩3代藩主・前田利常が入手したものと考えられています。筆跡の分析から、現在では異なる筆者を推定するものもありますが、利常、利為の意向を尊重して、同時に開催されている「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川」と関連する「金沢万葉切」以外は、特段の注釈なしに展示します。



重要文化財《手鑑 野辺のみどり》「金沢万葉切」

近現代工芸(第5展示室)

初代徳田八十吉とその時代Ⅰ

11月9日(木)～11月26日(日) 会期中無休

本展は、初代徳田八十吉の生誕150年の節目を迎えたことを記念し、開催します。

九谷焼の陶芸家・初代徳田八十吉(1873～1956)は、古典文様の組み合わせや、写生に基づく絵付を施し、独自の作風で現在も高く評価されています。自身が陶芸の道に進んだ際、古九谷や吉田屋窯の作品に感銘を受け、それらを再現するために釉薬を研究します。その過程で、深厚釉^{しんこうゆう}などの新しい釉薬も開発しました。その後、絵付の技術に裏付けられた古九谷五彩の再現度の高さが評価され、昭和28年(1953)に、「上絵付(九谷)」の分野で「助成の措置を講ずべき国の無形文化財」に選定されています。

展示では、初代八十吉が欽慕^{きんぼ}する古九谷・再興九谷

の写しや、自身の開発した濃い紺色と紫を主体とする深厚釉を用いた作品を中心に紹介します。初代八十吉《色絵山水図大鉢》は、緑、黄、紺、紫、赤の九谷五彩で楼閣山水を描いた迫力のある作品です。また、同《色絵金彩葡萄酒花瓶》は深厚釉を用いた作品で、金彩により縁取られ、意匠化された色鮮やかな葡萄酒様が器面いっぱいに広がり、新しい時代を感じさせるような九谷焼です。

その他、初代のもとで絵付をおこなっていた洋画家の碓伊之助や中村研一の陶磁器や絵画作品、交流のあった工芸家や歴代八十吉の作品も併せて紹介します。



初代徳田八十吉《色絵山水図大鉢》1953年

古美術(第2展示室)

茶道美術名品展Ⅱ

10月27日(金)～11月26日(日) 会期中無休

このたび、金沢市錦町 越澤家様から、重要文化財《染付竜文花生 銘 白衣》安南をご寄贈いただきました。

重要文化財《色絵雌雄香炉》に続いて、重要文化財に指定された歴史的な名品をご寄贈いただいたことは、茶道美術をコレクションの柱の一つとする当館にとって有難く、越澤家様には改めて厚く御礼申し上げます。

本作は、わずかに灰色を帯びた白色半磁胎で、円筒形の胴の上下をしほり、口と底を開いて口縁下に花弁を造り出した珍しい形で、これを白衣観音に見たて、白衣の銘が付けられました。胴には竜文・蓮弁文・波濤文などが染付で描かれており、14世紀後半頃に安南(ベトナム)で作られたと推測される、いわゆる安南染付の代表作です。中国元時代の陶磁の影響が

強く反影したもので、同様の作例は世界に例がなく、もと徳川將軍家が秘蔵した名物茶道具である「柳宮御物」として伝わりました。

本展では、第2展示室の中央に独立ケースを配置して本作を展示しています。その後方にある、第2展示室正面の固定ケース中央には、「白衣」にちなんで伝牧谿筆の《観音図》を展示しています。今回は、脇絵として久隅守景の《蓮に翡翠図・笹に兎図》を用い、そして、この三幅対の手前には禅的意味合いから、野々村仁清作の重要文化財《色絵梅花図平水指》を展示しました。こうした名品の協演によって、当地における茶の湯文化の厚みを実感することができます。今回は唐物、高麗物、和物の取り合わせの中で、安南の魅力が一層際立ったのではないのでしょうか。



重要文化財《染付竜文花生 銘 白衣》安南

近現代絵画・彫刻(第4・6展示室)

優品選

11月9日(木)～11月26日(日) 会期中無休

第4展示室油彩分野からは、高光一也《フードの女I》を紹介します。本作は高光作品の中でも最も華麗とも言われる作品。オレンジの背景の中で紫の衣服を着こなす女性の姿は鮮烈な印象を与えます。本作以降、作者はエキゾチックな衣装を身に纏う女性像を繰り返し描くようになります。

彫刻分野からは吉田三郎《山羊を飼う老人》をご紹介します。吉田三郎が生涯に渡り追求した、老年の男性像に動物を組み合わせた本作は、作者の代表作の一つとして知られています。老年の男に2匹の山羊が寄り添う配置は、写実性と力強さに加え、これまでの吉田の群像にはない強い安定感を見せています。

第6展示室日本画分野からは、玉井敬泉《山の秋》

を紹介します。本作は、紅葉したナナカマドや高山植物の中に雷鳥を配した秋の白山の風景です。敬泉は画家として活躍したほか、白山の国立公園化や、文化財の調査・保護、日本工芸会の創設に加わるなど文化行政に貢献しました。「三の丸尚蔵館収蔵品展」には、敬泉図案の壁掛けの大作が展示されています。

版画分野からは脇田和のリトグラフ作品を展示します。10代のドイツ留学時代以来の黒白の単色表現から、のちに日本在住のブブノア女史の作品に魅せられ、色彩リトグラフを手がけるようになった脇田。刷り師と一緒に制作する方法の普及を願うなど、多くの画家にリトグラフ制作の魅力を伝えようとしていました。



脇田和《裸婦と小鳥》

近現代絵画・彫刻(第3展示室)

モダン 近代逍遙

11月9日(木)～11月26日(日) 会期中無休

前号および前々号で、「美術、芽吹く」「あたらしい近代生活」の展示作品を解説しました。最後となる今回は、「作家がみた石川」セクションについてご紹介いたします。

むかしの石川はどんな風景だったのでしょうか。そして、作家の眼に映る石川とは。ここでは、石川を描いた絵画作品を紹介いたします。モチーフがはっきり分かっている作品を集めると、金沢を優しく流れる浅野川、当館おとなりの兼六園、坂を下がったところに位置する石浦神社といった金沢らしい風景から、加賀藩の伝統を伝える「加賀鳶」たちの雄姿、お寺や鉱山までが集まりました。

優れた観察力と理論的な形態把握による写実的な

絵画を得意とした佐々木三六の水彩画を3件展示しています。兼六園、浅野川、石浦神社という金沢でも親しみ深い風景を選んでみました。明治時代の風景ですが、《兼六園の灯籠》に描かれた灯籠は、いまでも兼六園にあるそうです。

現在の小松市にあった尾小屋鉱山おごやは日本有数の銅鉱山として知られています。描かれているのは、銅の精錬工程の一部。背景にある真吹炉まふきろを利用して取り出した純度の高い銅を型に流し込む作業です。高温になった金属を扱う危険な作業のなか、男性たちは手ぬぐいに腰巻という軽装です。厳しい環境のなか、鉱山労働で鍛えられたたくましい男たちが仕事を行う様子を剛健な筆致で描いています。



坂寛二《尾小屋鉱山》

VRシアターに新作が追加！

7月号の美術館だよりで、当館コレクション展示エリアに都道府県立の美術館では全国初となる最先端の映像技術を活用したVRシアターがオープンしたことをお知らせしましたが、もうご覧いただけましたでしょうか。10月からこのVRシアターに新しい映像が加わりました。

「前田家が伝えた万葉集 ―心揺さぶるいにしへの想い―」(12分)

前田育徳会に伝わる《万葉集 巻第三・第六残巻》藤原定信(伝源俊賴)筆、通称「金沢本万葉集」は、その希少性と芸術性から五大万葉集に数えられ、国宝に指定されています。江戸時代から加賀前田家に伝来し、明治時代にその大部分が前田家から天皇に献上され、現在前田育徳会と皇居三の丸尚蔵館に分かれて収蔵されていますが、現在開催中の「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展」で、その2冊が時を経て同時に展示されています(11月5日まで)。展示会の鑑賞後、あらためてこのVR映像をご覧いただき、かつて前田家の人々が目にした「金沢本万葉集」の世界を感じていただければと思います。

場所…2階コレクション展示エリア内

※コレクション展の観覧券が必要です

上映日…毎日上映(コレクション展示エリアの休館日を除く)

上映作品

A「美を紡ぐ、そして文化を育む

―加賀前田家から現代へ、

そして未来へ―」(18分)

B「色絵雉香炉

―悠久の時を超えて―」(15分)

C「前田家が伝えた万葉集

―心揺さぶるいにしへの想い―」(12分)

※上映スケジュールは当館公式ウェブサイトでお知らせしています。



VRシアター

11月の行事予定

■企画展「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展」関連イベント

特別講演会「三の丸尚蔵館の過去・現在・未来」(仮)

23日
(木・祝)

朝賀 浩氏(皇居三の丸尚蔵館副館長)

美術館ホール 無料

18日(土)・
19日(日)

ワークショップ「みんなでつくろうー扇面散屏風」

美術館講義室 無料

※関連イベントの詳細については本号2ページをご覧ください。

■土曜講座

13時30分〜15時 美術館講義室 無料

25日(土)

「所蔵作家シリーズ」北野恒富

学芸第一課長 前多 武志

村上 尚子(学芸第一課学芸専門員)

姉妹館交流事業で、大韓民国の国立全州博物館に2か月滞在したのは、石川県立歴史博物館に勤務して4年目、28歳の時でした。まだ日韓ワールドカップが行われる前、映画「シユリ」が日本でも公開された頃です。韓国各地の国立博物館を案内してもらい、館長や研究官の方々とソジュ(焼酎)を酌み交わしました。博学な方ばかりで、日本語にも長け、自分の不勉強を恥じたものです。扶余の国立博物館で見た国宝の《百済金銅大香炉》は、百済の時代の香炉です。日本はようやく聖徳太子が出てきたような時期に、すでにこんなに精緻で美しい造形があったとは。文化に対する誇りが、この国の人々の誇りにつながっていることに気づきました。



《百済金銅大香炉》
国立中央博物館 (ソウル) 蔵

《深厚釉線文壺》しんこうゆうせんもんつぼ

口径1.5 胴径35.0 高さ34.4cm
昭和58年(1983) 第7回伝統九谷焼工芸展

三代徳田八十吉

さんだい・とくだ・やそきち

昭和8年～平成21年(1933～2009)



また、縦方向にひかれた線文がアクセントとなり、作品を引き締めています。この線文は、三代八十吉が36歳のときに観たイタリア人画家ルーチョ・フォンタナの「空間概念」シリーズにみられる、キャンバスを切り裂いた一筋の線に感化されたものです。

三代八十吉の彩釉磁器の技術は、初代八十吉が古九谷・吉田屋窯作品の再現を目指す過程で開発した、独自の釉薬、深厚釉をベースとしています。深厚釉は九谷五彩のうち、濃紺と紫を主としたもので、深い色合いに特徴があります。

丸みをおびた器体に深厚釉を施した本作は、濃紺と淡い紺が混ざり合い、深く美しいグラデーションとなっています。工芸として最低限の用途性を持たせた、首と口縁部が、シャープな印象をあたえています。

特別陳列「初代徳田八十吉とその時代」では、初代八十吉だけでなく、歴代八十吉の作品も展示しています。三代八十吉は初代八十吉とちょうど60歳差で、本年は生誕90年を飾る節目の年でもあります。

三代徳田八十吉は、昭和8年(1933)、小松市に生まれました。本名は正彦。初代および二代八十吉に師事。昭和30年(1955)第11回日展初入選、昭和46年(1971)第18回日本伝統工芸展初入選、以後入選受賞を重ねます。平成9年(1997)に重要無形文化財「彩釉磁器」保持者に認定。平成21年(2009)歿しました。

次回の展覧会

令和5年12月1日(金)
～12月24日(日)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

溶姫と婚礼調度

石川県の文化財

第5展示室

第3・4・6展示室

特別陳列
初代徳田八十吉とその時代Ⅱ
【工芸】

優品選
【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料

※()内は団体料金
11月6日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

11月の休館日は
27日(月)～30日(木)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRしませんか?

広報紙広告ならではの
メリット

地域に根ざした
情報発信

石川県での
知名度向上

自治体発行の
信頼度の高い
広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください!

092-716-1401

株式会社

ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保

株式会社

石川県立美術館だより
第481号(毎月発行)
2023年11月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。